

INSTI耐性関連変異

- **N155H** : RALによる治療の失敗の早期に発現し、その後、より高度の耐性をもたらす他の変異が生じる^{1,2,6}。
 - RALとEVG間の交差耐性に関連する。ベースライン時にN155Hを有し、DTGによる治療が失敗した症例がいくつか報告されている。
- **Q148H/R/K** : RALによる治療の失敗後に発現し、コドン140の変異と共存するとEVGに対する交差耐性を付与する^{1,2,6}。
 - Q148変異のみの場合はDTGやBICに対する感受性が保持されるが、G140S、E138Kやその他の副次変異と共存すると感受性が10倍減少する³。
- **Y143C/R** : RALによる治療の失敗に関連するまれな変異^{1,2,6}
 - EVG耐性につながらず、DTGやBICに対する感受性に影響を及ぼさない。
- **E92Q** : EVG投与中のウイルス学的失敗時に発現^{1,6}
 - RALに対する交差耐性は少ない。DTGまたはBICに対する感受性に及ぼす影響は最小限／全くない。
- **Q148R/H、N155H、G118R、R263K** : DTG単剤療法の結果として生じる^{4,5}。
 - R263K : DTG投与中のウイルス学的失敗時に発現し、RAL投与中でも認められることがある⁶。

1. Wensing AM, et al. *Top Antivir Med.* 2019;27:111-121. 2. Hatano H, et al. *J Acquir Immune Defic Syndr.* 2010;54:389-393.
 3. Castagna A, et al. *J. Infect Dis.* 2014;210:354-362. 4. Wijting I, et al. *Lancet HIV.* 2017;4(12):e547-e554.
 5. Blanco JL, et al. 2017 CROI. Abstract 42. 6. Stanford University HIV Drug Resistance Database. July 2020.